

www.foro.jp

# foro フリースクール フォロ News Letter

おかげさまで、フォロは設立から満4年を迎え、この秋にはささやかな4周年パーティーを開催。子どもたちがOB・OGを招いて手づくりランチを振る舞い、ひとときをいっしょにすごしました。その翌日には、現役メンバーと親の集う時間に、自らの不登校や進路についての体験談を話しに来てくれるOGがいました。

少しずつでも、“つながり”から道が拓けていく感覚を大切にしたいと思ひますし、この生きにくい社会のなかにあつて「自分は生きていい」と、ひとりでも多くの子どものが実感できるように、ゴチャゴチャしながらも足下を見据えながらこの場をつないでいきたいです。

さて、ここ4カ月ほどは気候にも恵まれ、フォロの活動はいろいろに盛り上がりました。今号は紙数の都合で、これらの活動は写真にてご覧いただきご報告に代えさせていただきます。昨年に引き続いての大阪府青少年活動財団からの支援事業のおかげで、海洋体験や工芸、各種スポーツ、キャンプなどのお楽しみも加わりました。悩みや不安も常にいっしょですが……。

支えてくださっているみなさんには、心から感謝いたします。新しい年も、どうぞ応援してください。よろしくお願ひいたします。

2006年1月1日  
特定非営利活動法人フォロ  
代表理事 花井紀子



4周年パーティー／11月3日



東京旅行／11月14日～16日

## 最近の活動から

### 「発達障がい」について 公開学習会を開催

11月、フォロは初めての公開学習会「発達障がいって何だろう?」を開きました。講師の浜田寿美男さん(奈良女子大学)は、「発達の結果であり目標ではない。手持ちの力でやりくりしているうちに、結果としてできるようになったりする」「人生に準備の時間はない。子どもは子どもの今という本番を生きている」など、とてもわかりやすくお話くださり、質疑を含めた3時間くらいがあっというまでした。フリースクールにとっても、日々大事にしたいことの根元を問い返せる学習会でした。

#### 【参加者の感想から】

- ・学校へ行かない中1の息子をみながら、息子の気持ちに寄り添う反面、変なあせりを感じていましたが、浜田先生のお話を聞いて気持ちが楽になりました。(親)
- ・学校制度の問題点も理解できました。子どもに力を身につけさせることに力が入ってしまいました。そういうことに気づけてよかったです。(親)
- ・小学校6年生の終わりから不登校になった子とともに生活していて、学校がいかに「力を身につける」に力を入れていたと思い知らされた。それにはついていけない息子が学校には居場所がなかったろう。いま27歳で、大検で大学に進学、中学、高校も行かなかったが大学、院で楽しく学んでいる。浜田先生のお話がよく理解できた。(子どもに関わる仕事に従事)
- ・初めてお話をきかせていただきました。一言では言えないのですが、自分の行なっていることを、あらためてとらえ直す機会になりました。大変興味深かったです。(教員)
- ・ちょっと求めているものどちがってましたが、まあ参考になりました。(親の友人・保健福祉センター)
- ・フリースクールのことも、あまりというか全然知らなかったの、とても勉強になりました。(親である友人からの誘い)



公開学習会／11月27日



市民フェスタに出店／10月23日



※大阪府青少年活動財団支援事業

海でカヌー体験／9月13日



勉強タイム／12月7日

**新しい自分 谷川 伸一郎 (フォロ会員・17歳)**

僕は小学校3年生から中学3年生までの約7年間、ほとんど学校へは行ってませんでした。原因は小3のときの担任からのいじめのようなもので、宿題を1ページ忘れただけで教室の後ろに立たされ「何で忘れた?」と何度も言われ、教室のみんなから見つめられプレッシャーをかけられ、何もしゃべれなくなって、授業の1時間ずっと、泣きながら立たされていました。そのときの担任の目は、まるで汚れた雑巾を見るかのようで、明らかに自分の生徒をみる目つきではありませんでした。

次の日、「学校を休む」と親に電話してもらって家にいたのですが、急に担任が家まで来て、腕を引っ張って無理やり学校まで連れて行かれました。親に「こんなのはイヤだ」と話しても理解してもらえず、親も無理やり連れて行くとして、行かなければ怒鳴られるうちに誰も信じれなくなり、自殺する夢を見たり、実際にビル3階辺りから飛び降りたりしたのですが、当然死ぬこともなく、足が痺れるだけで、どうしようもない気持ちになりました。

マンションの屋上から飛び降りればすむことなのに、3階で終わったのだから、どこかで死にたくはなかったのかなと、いまは思っていたりします。

小4のときの担任も、無理やりおんぶをしったりして連れて行く人でした。ただ、小3のときとちがったのは、「学校にいるときは先生と生徒、それ以外は友だちで付き合いおう」と言ってくれたことでした。小さなメモ帳に、今日思ったこと、学校に行ったらしたいことなどを書いて交換日記みたいにして自分の気持ちを伝えていたおかげで、少しは気が楽になっていったような気がします。無理やり連れて行くのには変わりありませんでしたが……。

小5~6年は、2年続けて同じ担任で、この担任も初めは家まで来て連れて行く人でした。でも、いい加減うんざりしていたので、「もう家には来ないで」と伝えると、「行きたいと思ったときは一番信頼している友だちを迎えに行かせるから来たいときは来てくれ」と言ってくれ、その後は、よほどのことがないかぎり家に来ることはなくなり、とても気が楽になりました。

小学校卒業の日は、とても大変でした。卒業式当日、朝出かける準備をしていたら、急に小3のときに教室であった多数の目線のことを頭から離れず、腹痛や吐き気がしてきて、学校を休むと親に頼んだのですが、「頼むから最後の日だけは出てくれ」と泣きながら言われ、「式に出なくてもいいなら」と、担任にもそのことを伝えるように頼んで、学校へ向かいました。しかし、またまた担任に腕を引っ張られながら、式に無理やり連れて行かれました。「最後の最後にコレかよ」と、少し裏切られた気持ちになったのを今でも覚えています。

中学に入って、いやな担任からも解放され、やっとふつうに登校できると思っていたのですが、やはりというか、ダメなものはダメなようで、初日に1回登校をしてから1年目は、ほとんど行けませんでした。中学の担任は1年~3年まで同じ人で、この人も家に来ては無理に連れて行く人でした。と言っても、今回は教室ではなく保健室でもいいと言ってく

れたので、少し楽に行けていました。

休み時間になると友だちが話をしに来てくれたり、保健室でやっていた勉強を見てくれたりして、とても楽しくやっていました。中2の1学期は、1年のときと同じように保健室登校をしていて、ある日に担任と友だちが「部活だけでもいいので来てみないか?」と誘ってきて、少し顔を出してみようと思いましたが、いま思えば、ここで部活に顔を出していなければ、中学にはほとんど行っていなかったと断言できるほど、部活は充実していました。

中2になり、登校回数や時間も増え、保健室に登校して1時間ほどですぐ帰っていたのが、次第に午前中は保健室、午後からは教室で授業を受け、授業が終わると部活に行けるまでになっていました。2学期になってからはほぼ毎日登校できるようになっていて、毎日がとても充実していてよかったのですが、3学期は2学期で力を使いすぎたのか急に学校へ行けなくなりました。

学校に行っていないあいだに、何とか「学校へ行こう、外へ出よう」と思って午前中で帰ったり午後から登校したりしていたのですが、どうしても教室という空間になじめず、そんな自分に失望したりしていました。

そのまま3年になり、受験でいろいろ悩まされていました。幼なじみの女の子から手紙でいろいろアドバイスももらったり、プリントをもらったりして、担任や親からもいろいろ聞かされ考えているうちに頭の中がゴチャゴチャしてきて、プレッシャーで押しつぶされそうになりました。その

ときに小3のときにあった自殺願望がまた芽生えてきて、実際に腕や手首を切ったり、自殺する夢を見るようになっていました。リストカットとは不思議なもので、痛いはずなのになぜか落ち着くというか、頭の中を真っ白にすることができました。何回か自分の腕を切ったりして自分を保ちつつ、結局、高校は行かないことに決め、中学を卒業しました。

中学を卒業して、いま、ちまたでよく耳にする「ニート」になり、ほぼ変化のな

い家の中で約2年ほど閉じこもっていたある日、自分の机の整理をしていて、中3のときに幼なじみからもらった手紙を見つけ、懐かしいと思いながら目を通していたときに、「変わりたいのなら、まわりの変化を待つんじゃなくて、自分から変わらないとダメ」という一文を見つけ、今の自分が情けなくなり、こんなことをしている場合じゃないと、インターネットで不登校の子どもでも行ける学校を探しました。フォロのホームページを見つけ、親に話してみると、「行きたいと思えたのなら行けばいい」と言われ、フォロに体験入会で行ってみて、ココしかないと思い、即入会を決めました。

初めのころは学校と同じでなじみずでしたが、フォロの人たちのほうから誘ってきてくれたりしたので、いつの間にかなじめている自分がいました。フォロに来る前は愛想笑いしかできなかった自分が、今ではしょうもないことでも思いっきり声を出して笑えることに、うれしく思えるようになりました。それだけ何かを変えてくれる何かがあると思います。

最後になりましたが、長々としたダメ文章をここまで読んでくれた方にはお礼を申し上げたいと思います。最後までどうもありがとうございました。



交流会・野球編 / 9月14日

## フォロ訪問の感想をいただきました

フォロにはいろんな方が訪問、見学に来られます。今回、府内のNPOで活動をされておられるアーティストの方がフォロ訪問の感想を寄せてくださったので、了解を得てこの方のHPより転載させていただきます。

10月中旬頃のこと。12月に発表する教育をテーマにした作品制作のため、アーティストの高嶺格さんと大阪市内のフリースクール「フォロ」を見学。まずスタッフの方に、4つほどある部屋を順々に紹介していただくことに。「スクール」という名前が付いているものの、全く既存の学校とは違う体裁。ここではいわゆる教室は存在せず、勉強机や椅子が整然と並べられているわけでもない。「生徒と先生のような関係もなく、そこに通う子どもたちは自由にスタッフルームにも出入りでき、自分のやりたいことをやりたい時間帯に自主的に行っている」といった感じだ。

もっとも驚いたのは(想像はしていたのだが)教科的な時間割がほぼ皆無なこと。これは自分の既存の教育感を大きく覆すものであった。「ここでは子どもたちの自主性に基づいて彼らがやりたいことをまず聞き、スタッフも含めみんなで意見を出し合い、どうやったらそれが実現できるかを考える」とは代表の花井さんの弁。「教育」ということばの使い方にも気を

払っているようだ。

施設の説明後、過去に不登校になりフリースクールに通った経験を持つ人々のエッセイ集を拝読。この本がなかなか面白い。いままで学校に行かない子どもたちを一括りにして「不登校児」と認識していた思考が解体してゆく。まず、学校に行かなくなった理由は、個々人で全く異なるものであること。単にクラスメイトに苛められたり、先生に虐げられたりといった受動的な理由ばかりでなく、「学校」という一つの価値に対するオルタナティブな生き方として不登校を選んでいる(この言い方が学生当時のエッセイ著者達の考え方をうまく言い表しているかは自信がないが)こともあるのだということが理解できた。

これは自分が仕事で取り組んでいるホームレス問題などにもいえることで、全てのマイノリティー(社会に生きる大多数が指示する価値観に対しての)が、そのマイノリティーな属性の名のもとに個々のパーソナリティーが無視されグルーピングされてしまうことに対して、もっと注意深くならなくてはならないと改めて気づく。「教育」による価値の相対化以前に、「教育」そのものが相対化されることで、もっとオルタナティブなモノサシが世の中に生まれるのかもしれない。(阿佐田亘/大和川レコード)

## お知らせとお願い

- 『とどけ!当事者の声』冊子できました。大阪府の不登校政策をめぐる当事者の立場で動いてきた記録がぎゅっとつまっています。フォロでも販売中(1部500円)。
- フォロのブログ、更新中です。フォロの日常をとにかく知ってもらいたい、と子どもたちもいっしょにつくっているページです。のぞいてみてください。
- フォロを応援してください。……NPO会員・支援会員になって(継続して)、運営を支えてください。また、子どもと直接すごしてくださるボランティアさんも募集しています。お問い合わせください。
- 最後に……このニューズレター前号でお願いしたら、ティーバックの麦茶をたくさんいただきました。おかげで買い足さずにすんでいます。ご協力をありがとうございました!

## ゆずってください

- 大きめのヤカン、インスタントコーヒー、紅茶etc...



フォロのブログ <http://www.foro.jp>

## Foro News Letter 第12号

発行日 2006年1月1日

発行者 特定非営利活動法人 フォロ  
〒540-0025 大阪府中央区東淀井町1-1-3

TEL06-6946-1507 FAX06-6946-1577

mail to: info@foro.jp

URL <http://www.foro.jp>

◎郵便振替口座 00900-1-25564

加入者名 フォロ